

岡山市脱炭素ロードマップ

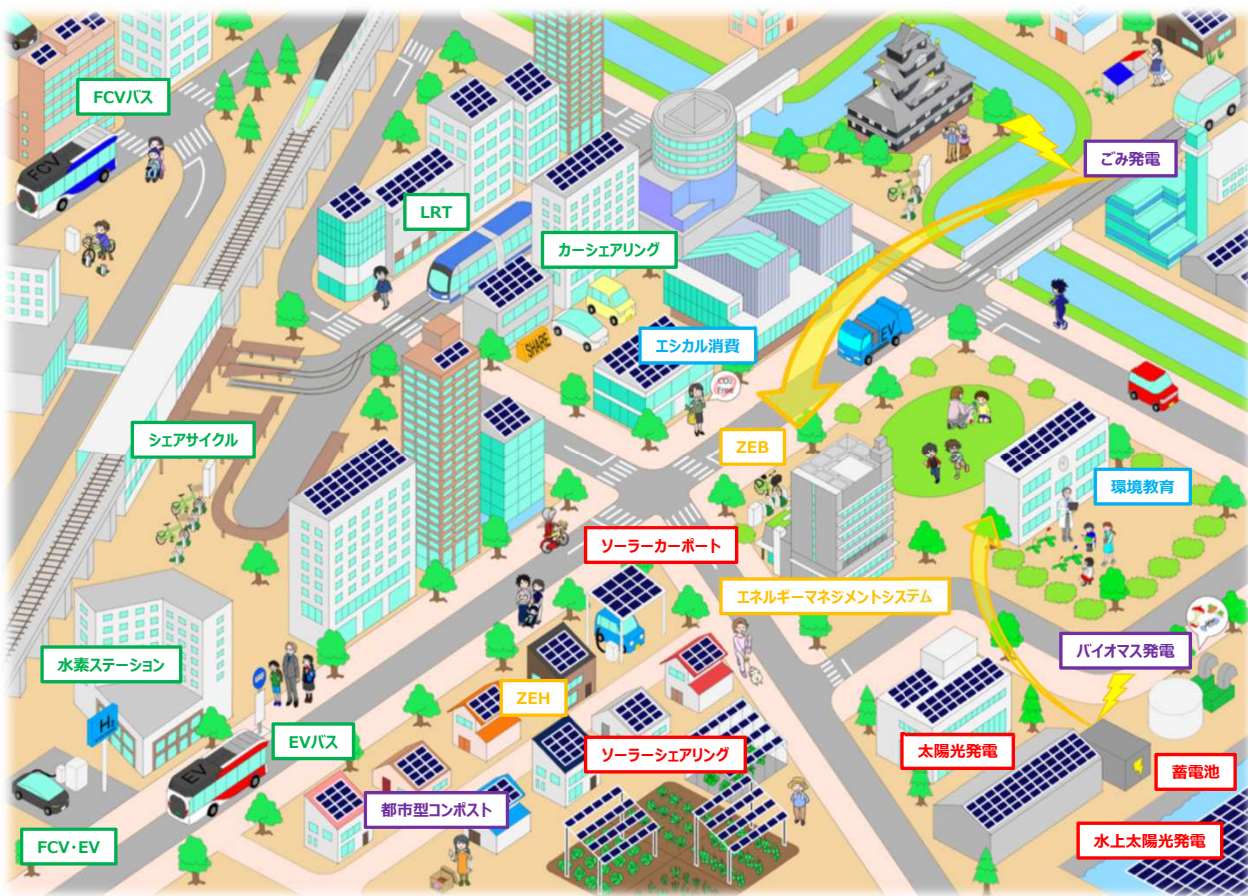
概要版

～みんなで進もう！ゼロカーボンシティ岡山～

岡山市では、2021年2月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことを表明しました。本ロードマップは、岡山市の各種計画に基づき、CO₂排出削減目標を達成し、ゼロカーボンシティ岡山を実現するための道筋を示すものです。

将来ビジョン

2050年ゼロカーボンシティを実現した岡山市のイメージ図です。いたるところで日常的に脱炭素につながる光景を目にすることができます。



市民・事業者の行動変容

- ・脱炭素に寄与する行動、カーボンフットプリントを意識した選択が日常的に行われています。
- ・「温室効果ガスをどれだけ削減したか」や「どれだけ環境に配慮したか」という価値基準による選択が行われています。
- ・「エシカル」や「サステナブル」といったスタイルが確立し、市民生活に浸透しています。

再生可能エネルギー

- ・あらゆる場所に太陽光発電設備等が設置され、再生可能エネルギーが最大限に導入されています。
- ・蓄電技術によって、再生可能エネルギーが効率的に活用されています。

省エネルギー

- ・住宅や建築物の省エネ化が進み、ZEHやZEBが一般化しています。
- ・高効率機器やエネルギーの「見える化」によって運用改善が図られ、大幅な省エネが進んでいます。

スマートムーブ

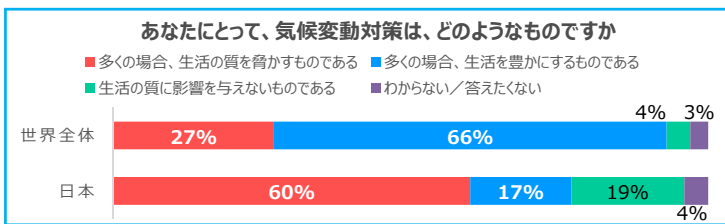
- ・徒歩や自転車移動する人が増えています。
- ・LRTやEV・FCVバスといった公共交通機関の利用率が上昇しています。
- ・カーシェアリングを利用する人が増えているとともに、EV・FCVでCO₂を排出しない移動が普及しています。

地域連携

- ・循環共生圏が構築され、地域間や地域内で連携することによって、自立した社会となっています。
- ・生ごみや廃食用油などの都市型バイオマスの活用や、4Rの徹底など限りあるエネルギーや資源が循環するしくみができています。

市民の状況

岡山市の市民意識調査の結果、2021年の地球温暖化防止行動の実践度は56.1%でした。2025年度の目標値である60%を達成し、さらにその先を目指すため、一層の行動変容の促進が必要です。日本人は気候変動対策が「**生活の質を脅かすものである**」と考えている割合が60%と高く、逆に「生活を豊かにするものである」と考えている割合は低くなっています。(World Wide Views, 2015)



課題

- 地球温暖化防止行動の実践度は6割弱にとどまっている
- 気候変動対策（地球温暖化対策）について否定的な印象が強い

課題解決の方向性

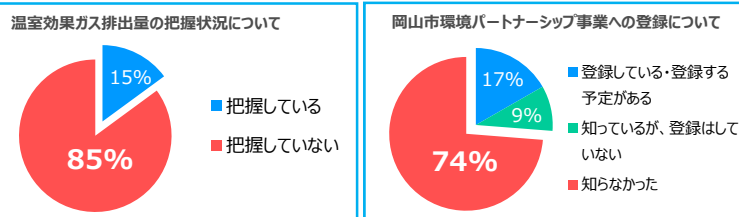
- 全ての市民が、地球温暖化対策を前向きに捉え、積極的に行動するよう取り組んでいく

取り組むべき項目

市民・事業者の行動変容
市の率先行動

事業者の状況

岡山市内の事業者（221者）へのアンケート調査結果では、「温室効果ガス排出削減目標」がある事業者は13%でした。また、温室効果ガス排出量を把握している事業者は15%にとどまりました。岡山市の温暖化対策につながる様々な取組について、「知らなかった」との割合はいずれも70%を超えていました。一方で、今後環境への配慮策として「従業員一人ひとりが日常的に行う省エネ行動の徹底」を検討している事業者は半数を超えており、事業者においても意識・行動の変容が求められています。



課題

- 温室効果ガス排出量の把握や削減目標の設定ができていない
- 岡山市の取組に対する認知度が低い
- 多くの事業者で、従業員の行動変容が重要と捉えている

課題解決の方向性

- 全ての事業者が、温室効果ガス排出削減に具体的に取り組んでいく
- 市は、事業者の具体的な取組につながるよう働きかけていく

取り組むべき項目

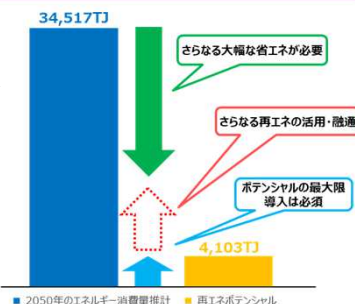
市民・事業者の行動変容
市の率先行動

エネルギー消費量と再エネポテンシャル

岡山市域の既存の再エネ導入量は約1,346TJであり、全体の再エネポテンシャル4,103TJの約33%となっています。また、最もポテンシャルの大きな再エネは太陽光となっています。

市域全体の2050年のエネルギー消費量は、34,517TJと推計されており、再エネポテンシャルは、2050年のエネルギー消費量推計の約12%です。

現時点でポテンシャルの推計に含まれていない雑種地等での太陽光活用や、市域外との再エネ電力の連携などを積極的に検討することが重要となります。



※岡山市再生可能エネルギー導入目標等の策定に向けた基礎調査（2021年）において推計された値

課題

- 現状では再エネポテンシャルの約3割しか活用できていない
- 再エネポテンシャルを最大限活用しても、市域全体のエネルギー消費量の1割程度しか賅えない

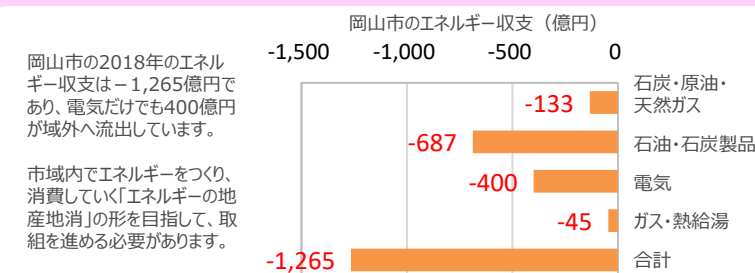
課題解決の方向性

- 再エネポテンシャルを最大限に活用していく
- 徹底的な省エネを進めていく
- 新たな再エネポテンシャルや、市域外の再エネ電力等を活用していく

取り組むべき項目

市民・事業者の行動変容
市の率先行動、再エネの導入促進
省エネの推進、地域連携の推進

エネルギー収支



課題

- 巨額のエネルギー代金が域外に流出している

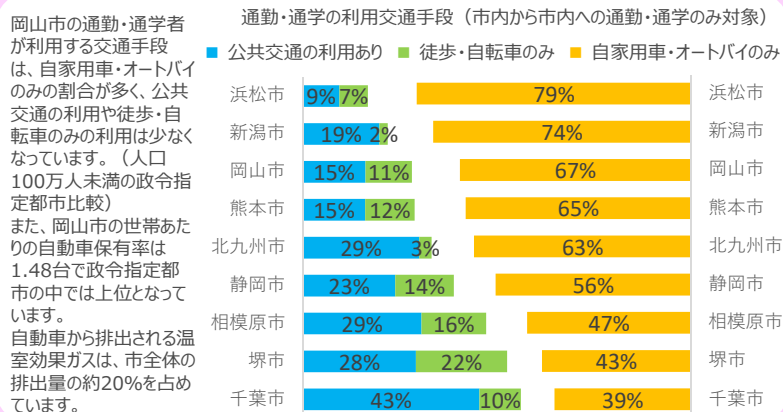
課題解決の方向性

- 域内でエネルギーの地産地消を進めていく

取り組むべき項目

市民・事業者の行動変容
市の率先行動、再エネの導入促進
地域連携の推進

交通関係の状況



課題

- 自動車への依存度が高い
- 運輸部門の温室効果ガスの9割以上が自動車から排出されている
- 自動車が市域全体の約2割にのぼる温室効果ガスを排出している
- 次世代自動車の普及率が低い

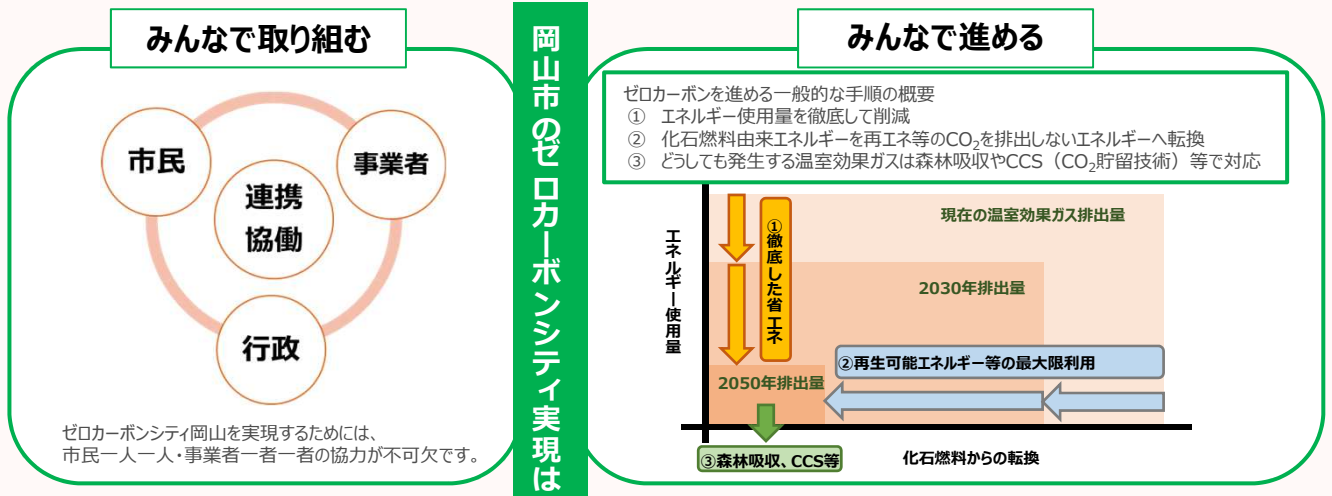
課題解決の方向性

- 自動車の利用機会を減らしていく
- 自動車以外の移動手段を利用していく
- 次世代自動車に切り替えていく

取り組むべき項目

市民・事業者の行動変容
市の率先行動
スマートムーブの推進

気候変動対策や持続可能な社会の実現に向けて、ゼロカーボンシティを目指すことは、非常に重要な課題です。しかしながら、ゼロカーボンシティを実現するために、生活が不便になることは避けなければなりません。岡山市では、脱炭素に向けた“賢い選択”を通して、「生活が豊かに便利になった」「安心して暮らせるようになった」と感じられるように、市民・事業者と連携・協働して、みんなでゼロカーボンシティの実現を目指します。



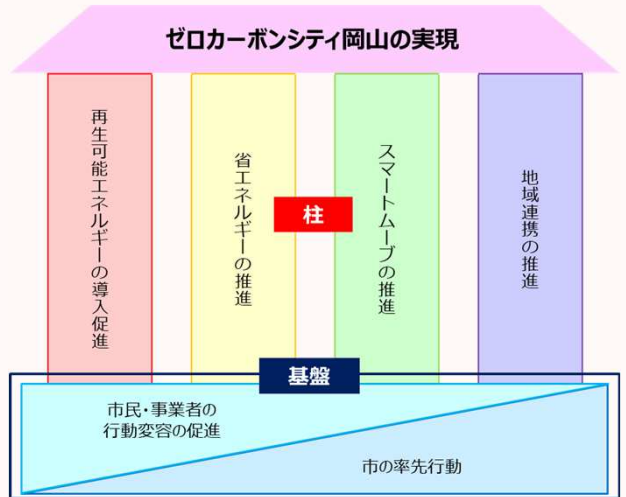
岡山市のゼロカーボンシティ実現は

ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の考え方

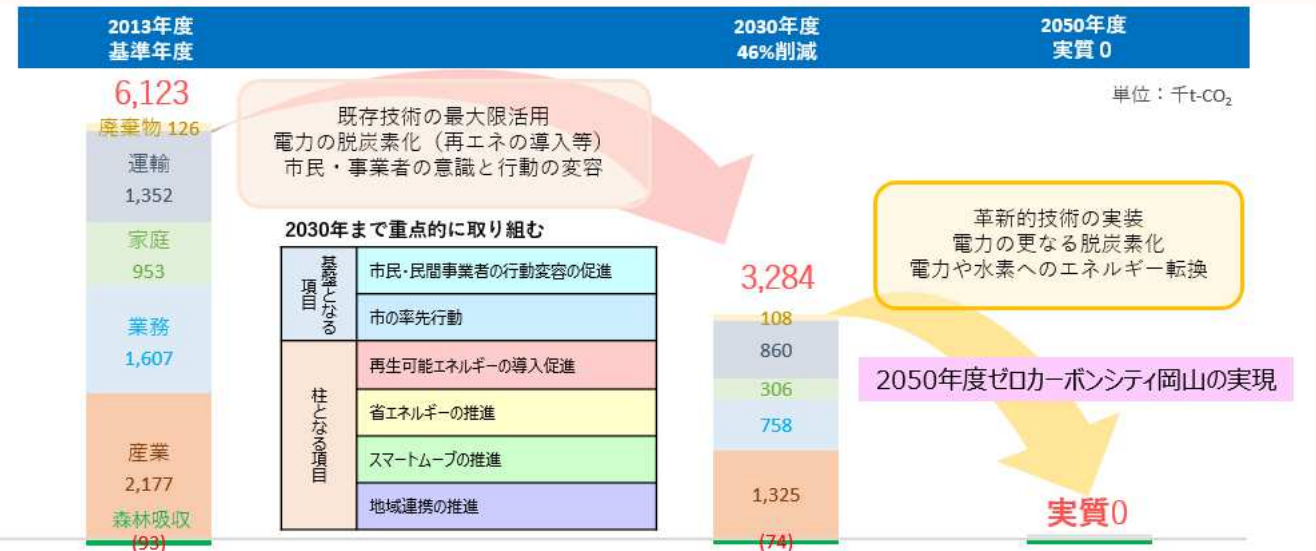
岡山市の現状と課題から、重点的に取り組むべき6つの項目が導き出されました。その中でも、特に「市民・事業者の行動変容」と「市の率先行動」は、他の取組を効果的に進めるために重要です。

基盤となる項目	市民・事業者の行動変容の促進	ゼロカーボンシティ実現に向けた様々な取組を効果的に進めるために、2030年まで特に重点を置いて進める。
	市の率先行動	
柱となる項目	再生可能エネルギーの導入促進	ゼロカーボンシティの実現に直接的に寄与する取組のうち、重点的に取り組む施策。
	省エネルギーの推進	
	スマートムーブの推進	
	地域連携の推進	

ゼロカーボンシティ実現に向けた基盤と柱のイメージ

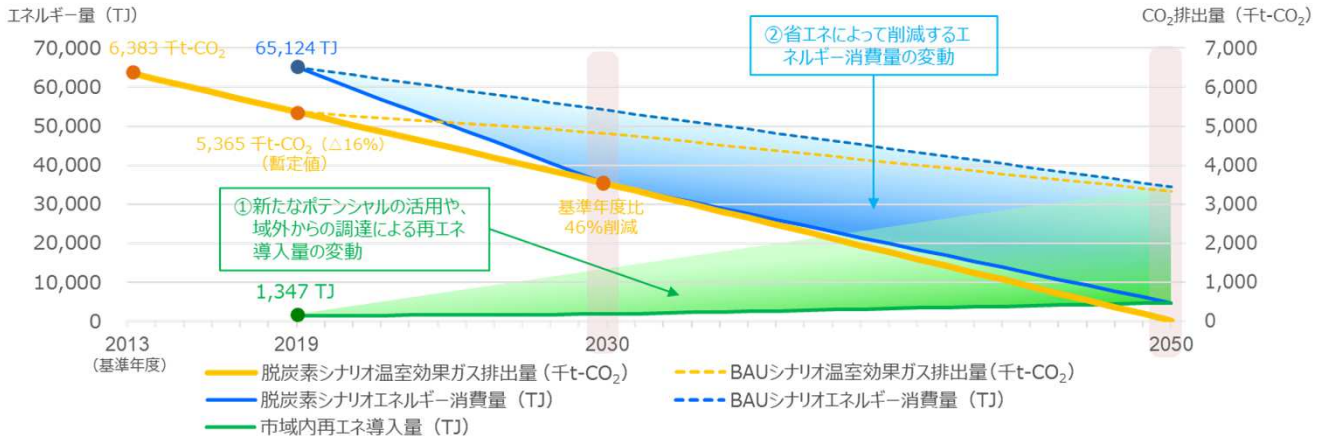


二酸化炭素排出削減の目安とイメージ



脱炭素シナリオと再生可能エネルギー導入目標

現状のまま追加的な対策をとらなかった場合（BAUシナリオ）、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを達成することはできません。今後、脱炭素シナリオを目標としたエネルギー消費量の大幅な削減と、再生可能エネルギーの最大限導入を進めることで、ゼロカーボンシティの実現を目指します。技術革新によって、現時点ではポテンシャルに計算されていない再エネを活用できるようになったり、市域外との連携によって再エネ電力が調達できるようになることで、エネルギー消費量をどこまで削減する必要があるのかは変動します。



岡山市の再エネポテンシャルは、エネルギー消費量に対して1割程度しかありません。そのため、ポテンシャルの最大限活用が必須となります。

発電方法	現状（基礎調査より）	2030年度	2050年度
太陽光	311.4 MW	453.4 MW	1035 MW
中・小水力	0.11 MW	0.11 MW	0.53 MW
バイオマス	8.54 MW	8.54 MW	12.15 MW
風力	-	-	23 MW

※太陽光発電設備は2030年以降の技術革新を見込んでパネルの変換効率向上を想定して導入量を計算
※中・小水力、風力はREPOSのポテンシャルの最大限導入を想定

ゼロカーボンシティ実現に向けた取組 ～ロードマップ表～

CO₂排出削減目標を達成し、ゼロカーボンシティ岡山を実現するために、重点的に取り組むべき6つの項目における主要な取組と、2050年度までの取組時期をまとめました。



		2023年度	2030年度 46%削減	2050年度 実質0
基盤となる項目	市民・事業者の行動変容の促進	クールチョイス等の推進 環境教育・環境学習及びESDの推進 CO ₂ 排出量や削減効果の見える化 多様な主体と連携した取組の推進		市民・事業者の脱炭素行動の定着 市民・事業者との協働体制の構築
	市の率先行動	市有施設への太陽光発電設備、省エネルギー設備・機器等の導入 再エネ100宣言 RE Actionの実現 公用車の次世代自動車への転換 廃棄物発電電力の有効活用		市有施設の原則ZEB化 市有施設の再エネ100を達成
柱となる項目	再生可能エネルギーの導入促進	太陽光発電設備の導入促進 廃棄物由来のバイオマスエネルギーの利用促進 その他の再生可能エネルギーの導入促進 グリーン電力の導入促進		再エネポテンシャルの最大限活用
	省エネルギーの推進	省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進 建築物のZEH化・ZEB化の推進 エネルギーの見える化の推進		新築住宅・建築物のZEH化・ZEB化
	スマートムーブの推進	自動車利用の抑制・転換の推進 公共交通利用の促進 カーシェアリング・シェアサイクル等の利用促進 次世代自動車（EV・FCV）の普及推進		次世代自動車の普及
	地域連携の推進	再生可能エネルギーの地産地消の推進・自立分散型社会の推進 岡山連携中核都市圏を含めた域外とのエネルギー連携 循環型社会の推進		地域循環共生圏の確立 岡山連携中核都市圏全体での脱炭素化